

(23) 以下の通り訂正いたします。

P248 共同発表者追加・修正

誤

231) 有料老人ホームで生活する慢性病を有する高齢者の健康行動

○齋藤英夫¹，旗持知恵子²

¹大阪府立大学大学院，²大阪府立大学

【研究目的】

有料老人ホームで生活をする慢性病を有する高齢者の健康行動を社会的・文化的文脈の観点から明らかにする。

【研究方法】

研究デザイン：エスノグラフィーを参考とした質的記述的研究。**情報提供者**：有料老人ホームに入居し，慢性病を有する高齢者で認知症の診断を受けていない者4名と施設職員10名。**調査方法**：有料老人ホーム1施設にて①施設におけるレクリエーションや日常生活の参加観察。②情報提供者に半構成的面接。③情報提供者のカルテの閲覧や施設職員からの聞き取り。**分析方法**：面接内容の逐語録と参加観察によるフィールドノートよりSpradley (1979)が示す意味関係を手掛かりとし，健康行動に関する言葉や文節を抽出し，コード化した。その融合，再編成を繰り返し，“種類”，“規準”，“目的”の3つの観点で分類，コード化，カテゴリー化した。情報提供者別にその関係性を明らかにし，構造化した。**倫理的配慮**：大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を受け，実施した（申請番号27-05）。

【結果】

情報提供者の健康行動の種類は，健康増進行動である【施設内外の環境を活用し，運動として歩くことを心がける】【身体に負担をかけないよう生活行動を調整する】など6カテゴリー，疾病管理行動である【疾病の防止と増悪予防の方策をとる】【自身の症状の管理をする】など4カテゴリーが見出された。健康行動の規準は他者との関係に関わる【他者のアドバイス】など3カテゴリー，自分の生活や価値に関わる【過去の経験】【生活のスケジュール】など4カテゴリー，自分の心身の状態に関わる【対処すべき心身の状態にあるという認識】の1カテゴリーが見出された。健康行動の目的は，「他人に迷惑をかけずに自分のことは自分でしたい」など個別的な目的が見出された。健康行動は施設の場の特性の影響を受け，健康行動の目的が動機づけとなって促進されており，他者との関係，自分の生活や価値，自分の心身の状態などの規準により実践されている構造が明らかになった。

【考察】

施設に入居する高齢者は地域高齢者と同様に多くの健康増進行動を実践しており，慢性病に関わる疾病管理行動に関しても施設や家族の支援を活用しながら自分の心身の能力に合わせて積極的に行っていた。健康行動の目的は各々の施設入居の経緯とも関連し，その動機づけは日本の高齢者特有の役割意識，規範として特徴づけられる文化的な特性に基づいていた。施設においては様々な生活上の決定を自ら行っているため，健康行動においても多様な規準に基づき，入居者自身が自ら選択し，決定していた。看護師は施設入居の経緯を知り，健康行動の目的や規準を当事者に確認することや必要な情報を提供し，共に考え，健康行動の内容や方法を自ら決定できるよう支援する必要がある。

正

231) 有料老人ホームで生活する慢性病を有する高齢者の健康行動

○齋藤英夫¹，旗持知恵子²，藪下八重²

¹大阪府立大学大学院，²大阪府立大学大学院看護学研究科

【研究目的】

有料老人ホームで生活をする慢性病を有する高齢者の健康行動を社会的・文化的文脈の観点から明らかにする。

【研究方法】

研究デザイン：エスノグラフィーを参考とした質的記述的研究。**情報提供者**：有料老人ホームに入居し，慢性病を有する高齢者で認知症の診断を受けていない者4名と施設職員10名。**調査方法**：有料老人ホーム1施設にて①施設におけるレクリエーションや日常生活の参加観察。②情報提供者に半構成的面接。③情報提供者のカルテの閲覧や施設職員からの聞き取り。**分析方法**：面接内容の逐語録と参加観察によるフィールドノートよりSpradley (1979)が示す意味関係を手掛かりとし，健康行動に関する言葉や文節を抽出し，コード化した。その融合，再編成を繰り返し，“種類”，“規準”，“目的”の3つの観点で分類，コード化，カテゴリー化した。情報提供者別にその関係性を明らかにし，構造化した。**倫理的配慮**：大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を受け，実施した（申請番号27-05）。

【結果】

情報提供者の健康行動の種類は，健康増進行動である【施設内外の環境を活用し，運動として歩くことを心がける】【身体に負担をかけないよう生活行動を調整する】など6カテゴリー，疾病管理行動である【疾病の防止と増悪予防の方策をとる】【自身の症状の管理をする】など4カテゴリーが見出された。健康行動の規準は他者との関係に関わる【他者のアドバイス】など3カテゴリー，自分の生活や価値に関わる【過去の経験】【生活のスケジュール】など4カテゴリー，自分の心身の状態に関わる【対処すべき心身の状態にあるという認識】の1カテゴリーが見出された。健康行動の目的は，「他人に迷惑をかけずに自分のことは自分でしたい」など個別的な目的が見出された。健康行動は施設の場の特性の影響を受け，健康行動の目的が動機づけとなって促進されており，他者との関係，自分の生活や価値，自分の心身の状態などの規準により実践されている構造が明らかになった。

【考察】

施設に入居する高齢者は地域高齢者と同様に多くの健康増進行動を実践しており，慢性病に関わる疾病管理行動に関しても施設や家族の支援を活用しながら自分の心身の能力に合わせて積極的に行っていた。健康行動の目的は各々の施設入居の経緯とも関連し，その動機づけは日本の高齢者特有の役割意識，規範として特徴づけられる文化的な特性に基づいていた。施設においては様々な生活上の決定を自ら行っているため，健康行動においても多様な規準に基づき，入居者自身が自ら選択し，決定していた。看護師は施設入居の経緯を知り，健康行動の目的や規準を当事者に確認することや必要な情報を提供し，共に考え，健康行動の内容や方法を自ら決定できるよう支援する必要がある。